

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立荻野小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 倉持 伸雄

学校教育目標

学校経営の方針

たしかな力と 豊かな心をもつ たくましい児童の育成

荻野の歴史や自然、人とかかわりの中で、地域の教育力を活用した、地域とともに歩む教育活動

今年度の重点目標

○確かな学力の向上に向けた授業改善 ○自他を大切にする子の育成 ○あいさつを交わしあえる関係の構築

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
基礎的・基本的な内容の定着を図るための実践に取り組む。	1	給食後3分間のドリルタイムタイム(サンドリタイム)の実施	GIGAスクール端末のAIDリルの活用では、児童は意欲的に習熟学習に取り組むことができていた。基礎的・基本的な内容の定着を図るために、教師がAIDリルの良さを生かしながら指導していく必要がある。	サンドリタイムを5分間できるように次年度の日課表を変更した。時間を伸ばしながら、教員間でAIDリルの成果を共有する時間を設けていく。
主体的・対話的で深い学びを生み出すための工夫、授業改善をする。	1	ペア学習・グループ学習などを取り入れた指導協働による問題解決	ペア学習、グループ学習、GIGAスクール端末などを授業の中で取り入れ、学習に効果が見られる。児童の主体的な発表活動を計画的に行うことができた。	根拠を明確にし、理由を述べて、主張する話し合い活動の場を増やす。少人数で話し合わせる学習形態を工夫する。
学びに向かう意欲を培う。	1	学習規律の徹底 体験活動の充実 外部講師の招聘 学習の振り返りの充実	本物に触れたり体験をしたりするために、地域の外部講師を呼び、児童の意欲の向上へとつながった。児童が学習について自ら振り返ることを継続することで、調整力の高まりが見られた。	児童が学びを調整する学習活動の支援の仕方を工夫する。児童の学習の振り返りを次の学習の意欲化につなげられるように指導方法を工夫していく。
自他を愛し、いじめを許さない精神を養う。	2・3	人権週間やぽかぽかタイムの取組 児童教育相談の実施 スマホ・ケータイ安全教室 全校道徳の取組	児童教育相談週間を学期に1回設け、児童一人一人と話をすることで、いじめの未然防止、早期発見対応ができている。縦割りでの全校道徳を行い、異学年間で人権について交流し深めることができた。	引き続き児童教育相談を継続し、いじめの未然防止・早期発見対応に努める。校内での情報共有を密にしたり、指導について話し合ったりするなど、学級経営を深めていく。
素直に感動する心を育てる。	2	道徳教育の充実 本の読み聞かせ 音楽鑑賞教室の実施	音楽に心を動かされる体験ができ、読み聞かせ、人形劇を鑑賞することで、心を開き感動する経験ができた。費用負担がない形での音楽鑑賞を実現したい。	読み聞かせや人形劇鑑賞の継続など、心が動かされる機会を多く設定する。無理のない範囲で芸術鑑賞教室を実施していく。
互いに励まし認め合い、協力し合う姿勢を育む。	2・3	集団宿泊的行事・縦割り班活動、縦割り清掃活動の継続的な実施 長屋休みのクラス遊びの充実	縦割り班活動や縦割り清掃など、異学年での活動を多く取り入れることで、縦の繋がりをもちながらお互いを尊重し、協力し合う態度を養うように指導を継続した。	縦割り班活動がより充実するように、事前指導を行うとともに、児童に考えさせる場を多く設ける。同学年でのつながりと異学年での交流を大切にしていきたい。

地域や自然を愛し、大切に 心を養う。	1・3	1, 2先生なかよし遠足、3年 生バードウォッチング、6年 生地区歴史探訪など、学年 に応じた地域活動	身近にある美しい自然に触れることで、自然や地域を 大切にすることが高まった。地域の良さを振り返る 活動の充実が今後も必要である。	現在の活動を継続していくとともに、地域の人材 を活用し、更なる活動の充実を図る。
基礎的な体力・精神力をつけ る。	1・2	持久走週間、なわとび週間 における全校運動の実施	持久走では、自分の力に合わせながら、走る喜びを 感じる事ができた。また、縄跳びも自発的に取り組 む様子が見られた。様々な取組を行うことで、自発的 に体を動かそうとする児童が増えた。	縄跳びについては一定の期日を設けるのではな く年間通して取り組めるように変更し、日頃から 外遊びをすすんで行うよう声掛けなどを行ってい く。
適切な食習慣を身に付ける。	1・2	日常の指導や給食週間を通 して食の大切さの指導 食物アレルギー対応 ニコニコ給食の実施	栄養教諭他職員が教室を回って、児童が進んで食べ るための指導を継続し、効果を上げた。「ニコニコ給 食」を通して、楽しく食事をすることを実感した。給食 週間では給食についての展示を効果的に行い、児童 の食への関心が高まった。	継続した食育指導を実施する。SDGsと関連付け た残菜を減らす取組なども併せて実施してい きたい。
安全・安心への意識を高める。	2・3	避難訓練、登下校の指導、 安心教室、交通安全教室、 スマホ・ケータイ安全教室の 実施	交通安全教室として、1・2年生が道路の歩行、3・4 年生が自転車の乗り方の指導を実施した。避難訓練 も継続的に実施してきた。SNSでのトラブルは少な からずあるので、継続して取組を行った。	よりよい不審者対応訓練のあり方、交通安全指 導の充実を検討する。大規模地震時の引き渡し について4校で共通理解を深める。情報モラル について取組を充実させる。
基本的な生活習慣の確立を図 る。	1・2	気持ちの良い挨拶の励行 チャイム着席などけじめをつ けて生活することなどの指 導を実施	地域の見守り隊への「ありがとうの会」を実施するこ とで、あいさつをすることの意識を高められた。また、 チャイム着席によって、児童が時間を守る意識をしっ かりもつことができた。	荻野小学校スタンダード(生活の決まりの一覧 表)を配付し、家庭の協力を仰ぎ、繰り返し指導 をしていく。また、機会があるごと全職員間で共 通理解を図り、統一した指導をしていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校運営協議会側から、子どもたちとともに作業や活動をする場面が欲しいという意見があり、協議会の主催で、子どもと共に除草作業をすることができた。情報周知には、協議会員である公民館の力も借り、広報・回覧などを行うことができた。

学校から、地域の人材を学習活動の支援に有効活用したい旨を伝えたところ、地域学校協働活動推進員が中心にリスト化を進めてくれた。また、委員から、保護者をもっと積極的に活用してはどうかとの意見があった。

全国学力・学習状況調査の児童質問調査の回答で児童の本離れが感じられることから読書活動の推進を図るようお願いしたいとの意見があった。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

地域の自然や歴史、人材などの教育資源を活用した教育活動に取り組み、地域に根差した学校経営を行うことができた。また、学校行事や地域人材を活用した特別授業のねらいを教師側が十分に把握し、指導後には児童の成長と学びの様子から成果と課題を把握するよう努めた。児童指導担当と教育相談コーディネーターを中心に、児童の諸問題に対して教職員間で迅速に共有し、組織的に対応することができた。「チャレンジ」を学校運営の中心に置き、児童、職員が失敗をおそれずに新しいことなどに挑戦することができるようになってきた。次年度に向けては、引き続き「すべての教職員が全ての児童に関わる」意識を大事に、より豊かなチーム体制で教育活動を進めていきたい。また、学校運営協議会からの意見にあるよう、保護者との協力関係をより充実させ学習支援等への協力要請を積極的に行っていくことや、読書活動の推進などに取り組んでいく。